

「会員短信 81」

「俳句と切り絵と透明水彩」

稲葉純子

俳句と切り絵と水彩画は、特に関連のないものだが、私の中では、いつの間にか切っても切れない「繋がり」になっている。まず、俳句は、夫がNHKの俳句通信講座を受講していた影響で、二〇一〇年より始める。しばらくして、当時所属していた結社の新年会で八木会長とお会いし、二〇一六年二月より滑稽俳句協会へ入会。透明水彩は、二〇一四年九月より開始。切り絵は、二〇一九年七月より始めた。

最初はそれぞれを無関係に制作していたが、共通の題材や自然に五感で触れ感動を覚える時、私の中でそれぞれが響き合うようになった。共鳴することで思いがけない程に創作意欲が湧き出て創作の幅も広がり、制作段階での葛藤も解消され、大いに気分転換にもなって心が救われた。

中でも、特に強い繋がりを感じるのは、俳句と切り絵である。お陰様で「ハイクアート賞」のコンクールでは、何度か大賞や特選をいただいた。

透明水彩は、第一美術協会主催により国立新美術館にて開催されたコンクールで、F八十号の人物画が二年前には佳作、昨年は入選をいただいた。

現在、子ども達も独立し、孫は五人となった。夫と二人、さいたま市に住んで四十五年になるが、まだ自然の残る環境の中で、俳句やアート作品の制作に生き甲斐を感じている。

今年もコンクールに応募するため、F八十号の人物画を制作している。そして、第十三回ハイクアート賞の応募作品の切り絵の構想を練り始めている。